

「横浜みどりアップ計画（計画期間：平成 26-30 年度）」の現状について

平成 26 年度から取り組んでいる「横浜みどりアップ計画」は、平成 29 年度に 4 年目となります。今回、平成 28 年度までの 3 か年について、事業・取組の評価・検証を行いましたので、ご報告します。

また、緑の保全や創造は、長期的な視点を持ちながら継続的に取り組む必要があるため、31 年度以降の緑の取組について検討を進めておりますので、「これからの緑の取組の検討の方向性」についてもご説明します。

<ご説明の内容>

- 1 横浜みどりアップ計画（計画期間：平成 26-30 年度）
3 か年の事業・取組の評価・検証 資料 1-1
- 2 横浜みどりアップ計画 3 か年の評価・提案
（横浜みどりアップ計画市民推進会議 平成 28 年度報告書より） 資料 1-2
- 3 これからの緑の取組の検討の方向性について 資料 1-3 ~ 資料 1-4

（参考資料）

- ・横浜みどりアップ計画（計画期間：平成 26-30 年度）
3 か年（平成 26 年度～平成 28 年度）の事業・取組の評価・検証
- ・横浜みどりアップ計画 3 か年の評価・提案
～ 横浜みどりアップ計画市民推進会議 平成 28 年度報告書 ～

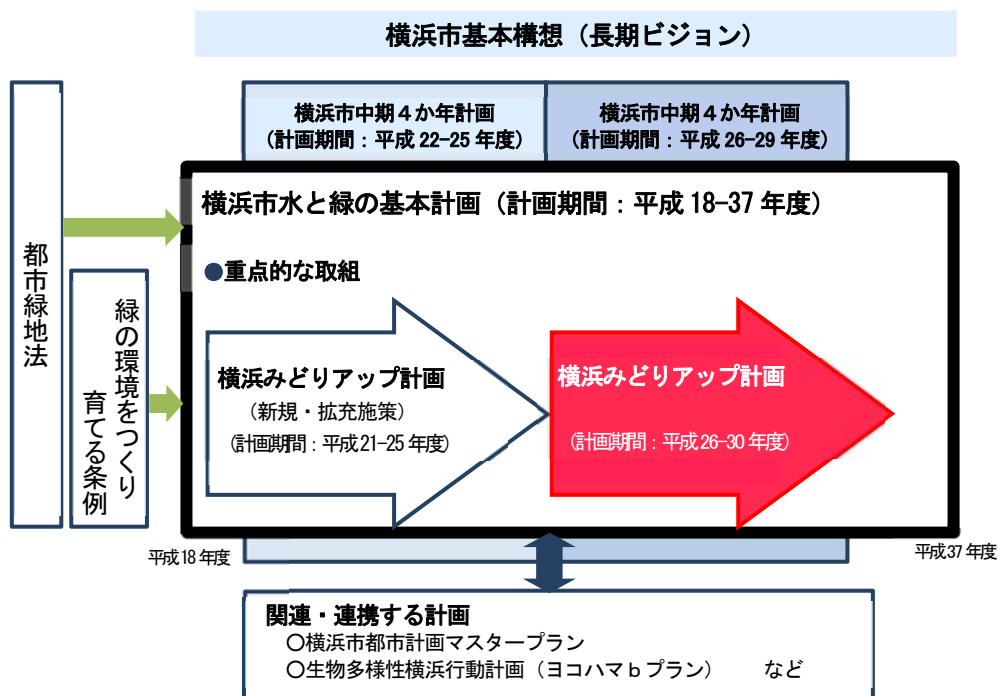
「横浜みどりアップ計画（計画期間：平成 26-30 年度）
3 か年（平成 26 年度～平成 28 年度）の事業・取組の評価・検証」（概要）

【目次】

1	みどりアップ計画の概要	P. 2
	（1）横浜みどりアップ計画の位置づけ	P. 2
	（2）計画の理念	P. 2
	（3）計画の体系と取組内容	P. 3
2	3 か年の事業・取組の実績と評価・検証	P. 4
	（1）評価の考え方	P. 4
	（2）評価の結果一覧	P. 4
	（3）「取組の柱 1 市民とともに次世代につなぐ森を育む」の評価・検証	P. 5
	（4）「取組の柱 2 市民が身近に農を感じる場をつくる」の評価・検証	P. 11
	（5）「取組の柱 3 市民が実感できる緑をつくる」の評価・検証	P. 16
	（6）事業費・みどり税の執行状況	P. 22
	（7）みどり基金残額	P. 22
	（8）3 か年の事業・取組の実績一覧（実績累計）	P. 23
	（9）3 か年の事業・取組の実績一覧（事業費累計）	P. 27

1 横浜みどりアップ計画の概要

(1) 横浜みどりアップ計画の位置付け



【図】横浜みどりアップ計画（計画期間：平成26-30年度）の位置付け

(2) 計画の理念

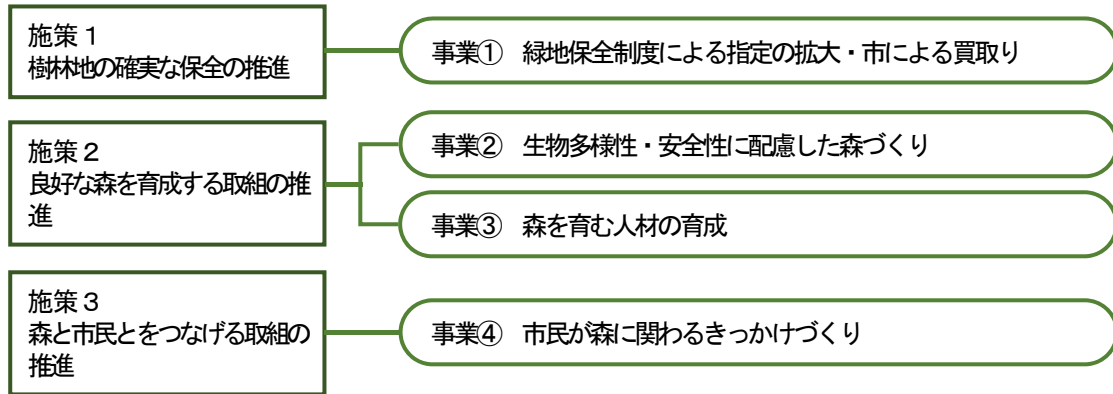
計画の理念：みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜

5か年の目標

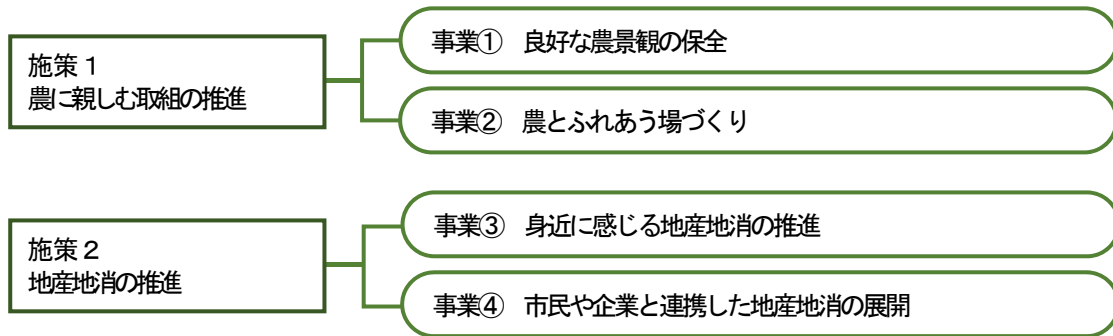
- 1 緑の減少に歯止めをかけ、総量の維持を目指します**
緑地保全制度の指定による樹林地の担保量が増加、水田の保全面積が増加、市街地で緑を創出する取組が進展 など
- 2 地域特性に応じた緑の保全・創出・維持管理の充実により緑の質を高めます**
森の保全管理など生物多様性に配慮した取組の進展、緑や花の創出により町の魅力・賑わいが向上 など
- 3 市民と緑とのかかわりを増やし、緑とともにある豊かな暮らしを実現します**
森に関わるイベントや農作物収穫体験、地域の緑化活動など、市民や事業者が緑に関わる機会が増加 など

(3) 計画の体系と取組内容

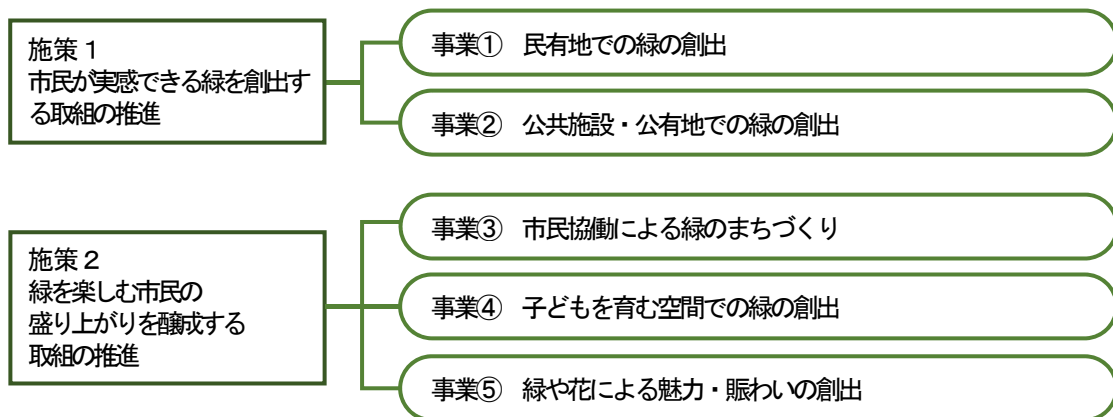
取組の柱 1 市民とともに次世代につなぐ森を育む



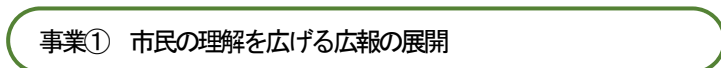
取組の柱 2 市民が身近に農を感じる場をつくる



取組の柱 3 市民が実感できる緑をつくる



効果的な広報の展開



2 3か年の事業・取組の実績と評価・検証

(1) 評価の考え方

ア 進捗状況の評価

全 29 の取組ごとの、5 か年の目標および計画事業費に対する 3 か年の進捗並びに執行率を、次の評価基準により評価しました。

〔進捗状況についての評価基準〕

◎:60%以上

○:40%以上~60%未満

△:40%未満

イ 3か年の総合評価

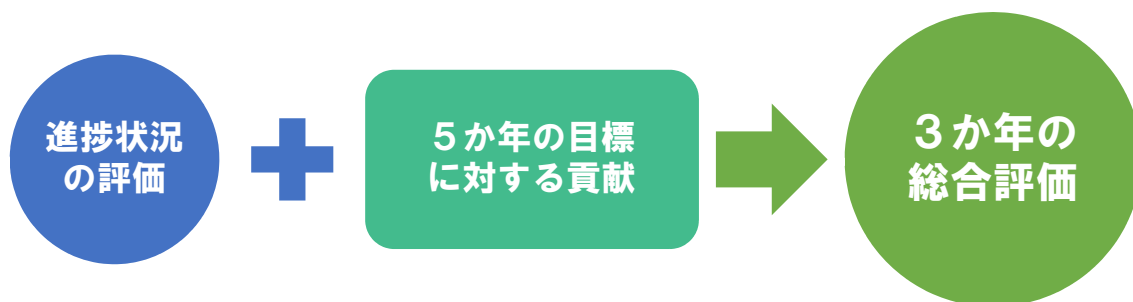
「ア」に加えて緑の総量の維持、緑の質の向上や緑と関わる機会の増加など、計画全体としての5か年の目標に対する貢献も含めて、各事業・取組の成果を総合的に評価しました。

〔3か年の総合評価〕

A:計画を上回る成果

B:概ね計画通りの成果

C:計画を下回る成果



(2) 評価の結果一覧

総合評価	A	B	C
取組の柱1	3	6	0
取組の柱2	3	6	0
取組の柱3	3	6	1
効果的な広報	0	1	0
合計	9	19	1

(3) 「取組の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む」の評価・検証

取組番号	事業名	総合評価	掲載ページ
取組の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む			
施策1 樹林地の確実な保全の推進			
事業①緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り			
1	緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り	B	3-5
施策2：良好な森を育成する取組の推進			
事業②生物多様性・安全性に配慮した森づくり			
2	森づくりガイドライン等を活用した森の育成	B	3-11
3	指定された樹林地における維持管理の支援	B	3-14
4	生物多様性に配慮した防災性・安全性の向上	A	3-16
5	間伐材の有効利用	B	3-18
事業③森を育む人材の育成			
6	森づくりを担う人材の育成	B	3-20
7	森づくり活動団体への支援	A	3-23
施策3：森と市民とをつなげる取組の推進			
事業④市民が森に関わるきっかけづくり			
8	森の楽しみづくり	A	3-27
9	森に関する情報発信	B	3-31



3か年の事業実績 ※数値は、端数処理を行っています。

＜事業の進捗状況＞

		緑地保全制度による新規指定		不測の事態による 買取希望等への対応	
進 捗 状 況	平成26年度実績	101.7ha		18.2ha	
	平成27年度実績	102.5ha		24.1ha	
	平成28年度実績	62.4ha		24.7ha	
	3か年累積 [a]	266.6ha		67.0ha	
5か年目標・想定 [b]		目標	500ha	想 定	108ha
3か年計画値 [c]		300ha		64.8ha	

目標・計画値に対する進捗率

		緑地保全制度による新規指定		不測の事態による 買取希望等への対応	
5か年目標・想定に対す る 進捗率 [a/b×100]		53%	○	62%	◎
3か年計画値に対する 進捗率 [a/c×100]		89%		103%	

＜事業費の執行状況＞

		事業費		うち横浜みどり税	
執 行 状 況	平成26年度決算額	5,878 百万円		677 百万円	
	平成27年度決算額	6,390 百万円		1,151 百万円	
	平成28年度決算額	6,250 百万円		913 百万円	
	3か年累積額 [d]	18,518 百万円		2,741 百万円	
5か年計画額 [e]		32,494 百万円		3,556 百万円	

計画額に対する進捗率

		事業費		うち横浜みどり税	
5か年計画額に対する執行率 [d/e×100]		57%	○	77%	◎



3か年の評価・検証

- ① 土地所有者への働きかけを積極的に実施することで、指定実績は3か年目標の9割に近い266.6haを指定しました。
- ② 近年では、比較的小規模な樹林地で指定の働きかけを進めている案件が多くなっており、大面積での指定案件は少なくなっています。この傾向は今後も続いていくと考えられます。
- ③ 指定地での買入の希望に対して、横浜みどり税を活用して確実に対応してきたことで、約67ha（約22ha/年）の樹林地を市有地として保全していくことができました。
- ④ みどりアップ計画の取組が、樹林地所有者の間で広く知られるようになり、以前は指定に至らなかった案件の中でも、再度の働きかけの際に指定できた案件も増えてきました。目標達成のためには、このような事業の周知・PR、再度の働きかけも重要と考えています。

森の保全が進展

「緑の10大拠点」をはじめとした市内に残るまとまりのある緑地を保全して次世代に引き継ぐため、土地所有者の理解と協力を得ながら、特別緑地保全地区・市民の森・緑地保存地区などの制度指定を積極的に進めました。また、特別緑地保全地区等の指定地で、土地所有者の不測の事態等による買入れ申し出に、着実に対応しました。

3か年で**266.6ha**
を保全（5か年目標：500ha）



図 緑地保全制度による新規指定等の面積推移

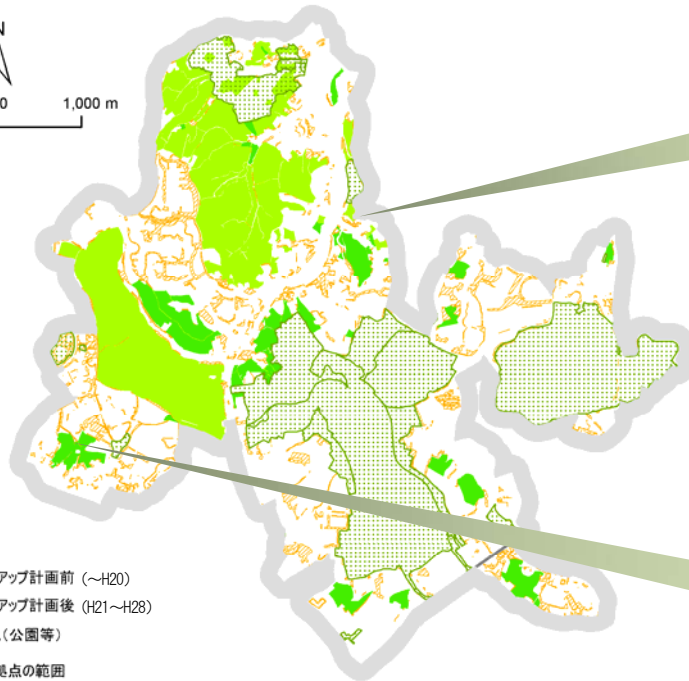
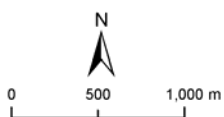


図 緑の10大拠点（三保・新治地区）での制度指定状況

取組番号 7 森づくり活動団体への支援



3か年の事業実績 ※数値は、端数処理を行っています。

<事業の進捗状況>

		森づくり活動団体への支援	
		樹林地	公園
進捗状況	平成26年度実績	延べ22団体	延べ9団体
	平成27年度実績	延べ23団体	延べ9団体
	平成28年度実績	延べ34団体	延べ10団体
	3か年累積 [a]	延べ79団体	延べ28団体
5か年目標 [b]		延べ50団体	延べ50団体
3か年計画値 [c]		延べ30団体	延べ30団体

目標・計画値に対する進捗率

		森づくり活動団体への支援		
		樹林地	公園	
5か年目標に対する進捗率 [a/b×100]	158%	◎	56%	○
3か年計画値に対する進捗率 [a/c×100]	263%		93%	

<事業費の執行状況>

		事業費	うち横浜みどり税
執行状況	平成26年度決算額	3百万円	3百万円
	平成27年度決算額	6百万円	6百万円
	平成28年度決算額	7百万円	7百万円
	3か年累積額 [d]	16百万円	16百万円
5か年計画額 [e]		28百万円	28百万円

計画額に対する進捗率

		事業費	うち横浜みどり税	
5か年計画額に対する執行率 [d/e×100]	57%	○	57%	○



3か年の評価・検証

- ① 森づくり活動を行っている団体に対する道具の貸出しや助成等の支援を通じて、樹林地の効率的・効果的な維持管理を推進しました。
- ② 森づくりに関する技術研修の実施を支援したことにより、森づくり活動を担う会員の人材育成につながりました。
- ③ 専門家の派遣により、生物多様性に配慮した保安全管理作業のアドバイスを、活動団体のニーズに応える形で行うことができました。
- ④ 今後は、森づくり活動の安全性向上のため、活動団体の安全管理の状況を把握し、より積極的な専門家派遣を行っていくことも必要です。

3か年の総合評価

A

森への関わりが広がり、深まる

森に関わるきっかけとなるイベントや講座を開催し、森に関わる市民の裾野を広げるとともに、森づくり活動に取り組む市民や団体を対象とした研修などにより、森を育む人の技術の向上を図りました。また、市民の森や都市公園内のまとまった樹林等において、森の将来像や維持管理の考え方、作業内容を定めた「保安全管理計画」を森ごとに策定し、生物多様性の保全や利用者などの安全確保のため、間伐や下草刈りなどの管理を進めました。



森づくりボランティア入門講座



アドバイザーの派遣



保安全管理計画に基づいた森づくり



春の野草30種研修

アドバイザーの派遣、道具の貸出し、活動に対する助成など

3か年で延べ**107**団体

[樹林地79団体・公園28団体]
の森づくり活動を支援
(5か年目標：100団体)

保安全管理計画の策定
計画に基づいた
維持管理作業

森づくり
活動団体

森づくり
ボランティア
など

森づくりボランティア入門講座
スキルアップ講座
活動団体の情報提供
加入の橋渡しなど

一般の方

市民の森等のガイドマップ作成
ウェルカムセンターにおける
展示解説、自然体験、環境学習など



自然遊び講座



トンボ観察会

クラフト教室や
生き物ウォッチングなど
3か年で**345**回の
森に関わるきっかけとなる
イベントを実施
(5か年目標：180回)

- 不測の事態による買取り希望等への対応：67.0ha [5か年の目標(想定)：108ha]
- 保安全管理計画の策定：樹林地8か所、公園12か所 [5か年の目標：樹林地15か所、公園10か所]
- 指定された樹林地における維持管理の支援：318件 [5か年の目標：650件]
- 3か年事業費累計：20,575百万円(うち横浜みどり税：4,205百万円) [5か年計画事業費：36,639百万円]

●森づくりの推進

森の維持管理をするための手法などが整理された技術指針である「森づくりガイドライン(平成25年3月策定)」や、森ごとに具体的な管理の計画を定めた「保全管理計画」を活用しながら、愛護会などと連携して森づくりを推進しました。



いろいろな立場の人

- ・利用者
- ・土地所有者
- ・森づくり活動をする人
- ・行政(管理者)
- ・事業者

いろいろな生き物

- ・明るい森が好きな生き物
- ・暗い森が好きな生き物
- ・湿地が好きな生き物
- ・森も草地も必要な生き物

その森の立地、歴史

- ・地形や気候
- ・周りの土地利用
- ・昔の土地利用
- ・風習や言い伝え、伝統行事

目標の設定 ゾーニング(エリアわけ) 管理の方法
みんなで話し合っ、調査をして、目標を共有する

生物多様性や安全性に配慮した維持管理の実施


森づくり

必要に応じて、
作業内容や方法の見直し

維持管理の成果を確認

(4) 「取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる」の評価・検証

取組番号	事業名	総合評価	掲載ページ
取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる			
施策1 農に親しむ取組の推進			
事業①良好な農景観の保全			
10	水田の保全	B	3-34
11	特定農業用施設保全契約の締結	B	3-37
12	農景観を良好に維持する取組の支援	B	3-39
13	多様な主体による農地の利用促進	A	3-42
事業②農とふれあう場づくり			
14	様々な市民ニーズに合わせた農園の開設	B	3-45
15	市民が農を楽しみ支援する取組の推進	A	3-50
施策2 地産地消の推進			
事業③身近に感じる地産地消の推進			
16	地産地消にふれる機会の拡大	B	3-55
事業④市民や企業と連携した地産地消の展開			
17	地産地消を広げる人材の育成	A	3-59
18	市民や企業等との連携	B	3-63

 **3か年の事業実績** ※数値は、端数処理を行っています。

＜事業の進捗状況＞

		水田保全承認面積	水源確保施設整備
進捗状況	平成26年度実績	119.7ha	1か所
	平成27年度実績	120.1ha	1か所
	平成28年度実績	120.8ha	2か所
	3か年累積 [a]	120.8ha	4か所
5か年目標 [b]		125ha	10か所
3か年計画値 [c]		122ha	6か所

目標・計画値に対する進捗率

		水田保全承認面積		水源確保施設整備	
5か年目標に対する進捗率 [a/b×100]		97%	◎	40%	○
3か年計画値に対する進捗率 [a/c×100]		99%		67%	

＜事業費の執行状況＞

		事業費	うち横浜みどり税
執行状況	平成26年度決算額	49 百万円	35 百万円
	平成27年度決算額	36 百万円	34 百万円
	平成28年度決算額	58 百万円	33 百万円
	3か年累積額 [d]	143 百万円	102 百万円
5か年計画額 [e]		343 百万円	183 百万円

計画額に対する進捗率

		事業費		うち横浜みどり税	
5か年計画額に対する執行率 [d/e×100]		42%	○	56%	○

 **3か年の評価・検証**

- ① 3か年で新規に承認された6.9haを加えて水田保全承認面積が水田面積全体の約9割となり、事業がおおむね順調に進みました。
- ② 水田は畑作に比べて収益性が低いことに加え、耕作者の高齢化により水稲作付が困難になっている状況の中で、水田保全承認や水源確保のための井戸設置に対する支援は、水田の継続に対して一定の効果があったと考えられます。

3か年の総合評価

B

「農景観を次の世代に」

市内の水田の9割を保全

貯水機能や景観形成などの市民共有の貴重な農景観である水田の減少を食い止めるため、水稲作付を10年間継続することを条件に土地所有者へ奨励金を交付し、市内の水田の約9割にあたる120.8haの水田の保全を行いました。

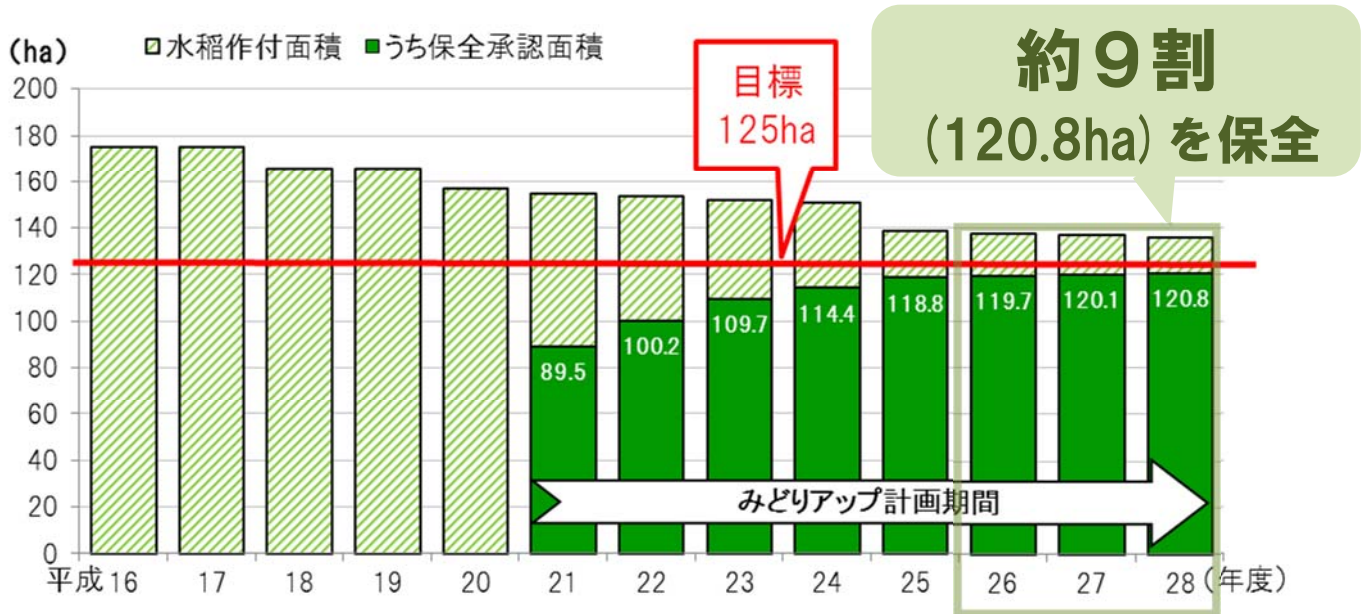
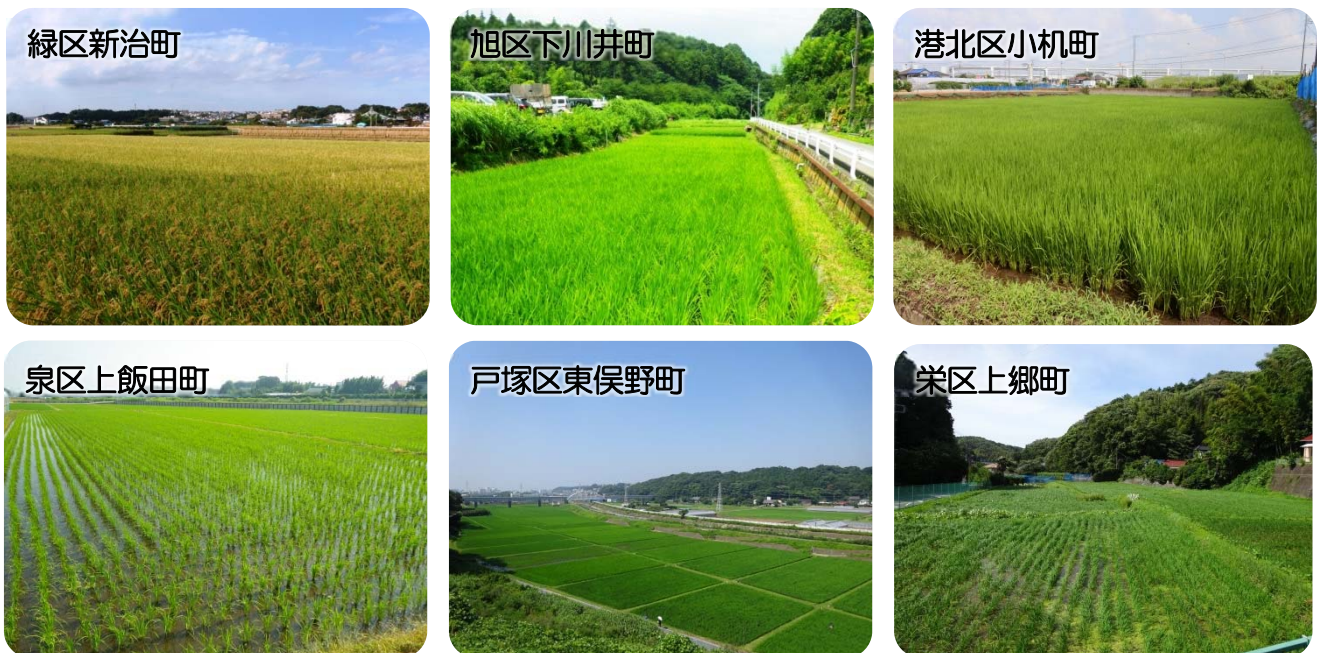


図 横浜市の水稲作付面積と保全承認面積の推移



取組番号 14 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設



3か年の事業実績 ※数値は、端数処理を行っています。

＜事業の進捗状況＞

		様々な市民ニーズに合わせた農園の開設			
		合計	収穫体験農園	市民農園	農園付公園
進捗状況	平成 26 年度実績	5.7ha	1.5ha	2.8ha	1.4ha
	平成 27 年度実績	4.6ha	1.0ha	2.2ha	1.4ha
	平成 28 年度実績	5.6ha	2.5ha	2.1ha	1.0ha
	3か年累積 [a]	15.9ha	5.0ha	7.1ha	3.8ha
5か年目標 [b]		25.8ha	12.5ha	6.0ha	7.3ha
3か年計画値 [c]		(15.5ha)	—	—	—
目標・計画値に対する進捗率					
		合計	収穫体験農園	市民農園	農園付公園
5か年目標に対する進捗率 [a/b×100]		62% ◎	40% ○	118% ◎	52% ○
3か年計画値に対する進捗率 [a/c×100]		103%	—	—	—

＜事業費の執行状況＞

		事業費	うち横浜みどり税
執行状況	平成 26 年度決算額	739 百万円	354 百万円
	平成 27 年度決算額	602 百万円	65 百万円
	平成 28 年度決算額	696 百万円	227 百万円
	3か年累積額 [d]	2,037 百万円	646 百万円
	5か年計画額 [e]	2,514 百万円	1,101 百万円
計画額に対する進捗率			
		事業費	うち横浜みどり税
5か年計画額に対する執行率 [d/e×100]		81% ◎	59% ○



3か年の評価・検証

- ① 開設支援や整備を行った農園を合計すると、3か年で 15.9ha となり、果物のもぎとりや野菜の栽培など、市民が農を楽しむ場が多く作られました。
- ② 事業として農園の開設に関心を持つ農家も多く、継続して取り組むことで、市民だけでなく農家のニーズにも答えることが可能です。
- ③ 農園付公園は、3か年で整備が完了した7か所のほか、複数箇所で事業が進んでいます。

3か年の総合評価

B

農とのふれあいの場が着実に増加

食と農への関心や、農とのふれあいを求める市民の声の高まりに応えるため、収穫体験から本格的な農作業まで、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設や整備を進めました。また、農体験教室の開催や直売所・青空市への支援など、楽しみながら農とふれあい、農畜産物などを味わえる機会を提供しました。

気軽に農を体験する

本格的に農を楽しむ



収穫体験農園



環境学習農園



農園付公園



直売所

3か年で**15.9ha（96か所）**
の農園を開設支援・整備
（5か年目標：25.9ha）



青空市



農体験教室



特区農園



企業連携によるマルシェ



あぐりツアー



はまふうどコンシェルジュの活動支援

- 農体験教室などの実施：271回 [5か年の目標：500回]
- 直売所等の支援：25か所 [5か年の目標：52件] / 青空市運営支援：14か所 [5か年の目標：25件]
- はまふうどコンシェルジュの活動支援：64件 [5か年の目標：60件]
- 3か年事業費累計：2,685百万円（うち横浜みどり税：882百万円） [5か年計画事業費：3,985百万円]

(5) 「取組の柱3 市民が実感できる緑をつくる」の評価・検証

取組番号	事業名	総合評価	掲載ページ
取組の柱3 市民が実感できる緑をつくる			
施策1 市民が実感できる緑を創出する取組の推進			
事業①民有地での緑の創出			
19	民有地における緑化の助成	C	3-68
20	建築物緑化保全契約の締結	B	3-71
21	名木古木の保存	B	3-74
22	人生記念樹の配布	B	3-76
事業②公共施設・公有地での緑の創出			
23	公共施設・公有地での緑の創出・管理	A	3-79
24	公有地化によるシンボリックな緑の創出	B	3-82
25	いきいきとした街路樹づくり	B	3-84
施策2 緑を楽しむ市民の盛り上げを醸成する取組の推進			
事業③市民協働による緑のまちづくり事業			
26	地域緑のまちづくり	A	3-86
事業④子どもを育む空間での緑の創出事業			
27	保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出	A	3-90
事業⑤緑や花による魅力・賑わいの創出事業			
28	都心臨海部の緑花による賑わいづくり	A	3-93
効果的な広報の展開			
事業①市民の理解を広げる広報の展開			
29	計画の周知や実績報告	B	3-96

取組番号 19 民有地における緑化の助成



3か年の事業実績 ※数値は、端数処理を行っています。

＜事業の進捗状況＞

		緑化の助成
進捗状況	平成26年度実績	5件
	平成27年度実績	5件
	平成28年度実績	7件
	3か年累積 [a]	17件
5か年目標 [b]		65件
3か年計画値 [c]		39件

目標・計画値に対する進捗率

		緑化の助成	
5か年目標に対する進捗率 [a/b×100]	26%	△	
3か年計画値に対する進捗率 [a/c×100]	44%		

＜事業費の執行状況＞

		事業費	うち横浜みどり税
執行状況	平成26年度決算額	2百万円	0百万円
	平成27年度決算額	2百万円	1百万円
	平成28年度決算額	2百万円	0百万円
	3か年累積額 [d]	6百万円	1百万円
5か年計画額 [e]		148百万円	123百万円

計画額に対する進捗率

		事業費		うち横浜みどり税	
5か年計画額に対する執行率 [d/e×100]	4%	△		1%	△



3か年の評価・検証

- ① 民有地での緑化推進を図るため、緑の少ない鶴見、神奈川、西、中、南の5区では、屋上緑化や壁面緑化だけでなく公開性や視認性の高い場所での地面での緑化を対象とするなど、助成内容を拡充して取組を実施しましたが、助成件数が3か年計画値の半分程度に留まりました。
- ② 多くの市民の目に触れる場所で制度がさらに活用され、緑の創出が実感できるように、効果的な広報を行うとともに、より利用されやすい工夫も必要です。

3か年の総合評価

C



3か年の事業実績 ※数値は、端数処理を行っています。

＜事業の進捗状況＞

		地域緑化推進事業
進捗状況	平成26年度実績	22地区（うち新規：6地区）
	平成27年度実績	26地区（うち新規：4地区）
	平成28年度実績	35地区（うち新規：9地区）
	3か年累積 [a]	35地区
5か年目標 [b]		46地区
3か年計画値 [c]		34地区

目標・計画値に対する進捗率

		地域緑化推進事業
5か年目標に対する進捗率 [a/b×100]	76%	◎
3か年計画値に対する進捗率 [a/c×100]	103%	

＜事業費の執行状況＞

		事業費	うち横浜みどり税
執行状況	平成26年度決算額	196百万円	196百万円
	平成27年度決算額	151百万円	151百万円
	平成28年度決算額	165百万円	165百万円
	3か年累積額 [d]	512百万円	512百万円
5か年計画額 [e]		931百万円	931百万円

計画額に対する進捗率

		事業費	うち横浜みどり税
5か年計画額に対する執行率 [d/e×100]	55%	○	55% ○



3か年の評価・検証

- ① 事業広報の充実とともに、専門家による緑化計画づくりの支援等により、多くの提案応募があり、地域にふさわしい緑をつくる計画が採択され、目標を上回る地区で緑化の取組が進みました。
- ② 地域の緑化計画に基づく緑化活動により、住宅地から商業・工業地域まで、その地区ならではの緑のまちづくりが進むとともに、緑をテーマとした地域コミュニティ活動も盛んになりました。
- ③ 市の助成が終了した後も、地域で自立的な緑化活動が継続できるように、団体同士の交流会などの支援の取組を今後も工夫する必要があります。

3か年の総合評価

A

35地区で緑のまちづくりが進展 緑を通じて地域も活性化

地域が主体となり、地域にふさわしい緑を創出する計画をつくり、計画を実現していくための取組を、市民との協働で進めました。

「緑や花でいっぱいの街をつくりたい」という地域の皆様から緑化計画の提案を公募し、まちづくりや緑化の専門家による計画づくりの支援を行い、平成25年度以前から継続して取り組んでいる16地区に加えて3か年で19地区の団体と新たに協定を締結し、市内35地区において、様々な緑をつくる活動が行われ、地域で緑化を推進しました。



横浜市内の
35地区で
緑のまちづくり
 (5か年目標：46地区)

図 地域緑のまちづくり実施箇所

取組番号 28 都心臨海部の緑花による賑わいづくり

3か年の事業実績 ※数値は、端数処理を行っています。

＜事業の進捗状況＞

		都心臨海部の緑花	緑花の維持管理
進捗状況	平成26年度実績	6か所	3か所
	平成27年度実績	4か所	4か所
	平成28年度実績	12か所	8か所
	3か年累積 [a]	22か所	15か所
5か年目標 [b]		推進	推進
3か年計画値 [c]		推進	推進

＜事業費の執行状況＞

		事業費	うち横浜みどり税
執行状況	平成26年度決算額	173 百万円	146 百万円
	平成27年度決算額	519 百万円	143 百万円
	平成28年度決算額	513 百万円	483 百万円
	3か年累積額 [d]	1,205 百万円	772 百万円
5か年計画額 [e]		1,620 百万円	1470 百万円

計画額に対する進捗率

		事業費		うち横浜みどり税	
5か年計画額に対する執行率 [d/e×100]		74%	◎	53%	○

3か年の評価・検証

- ① 都市公園や港湾緑地、街路樹などにおいて、緑のネットワーク形成や季節の花による空間演出が着実に進み、街の回遊性や魅力が高まりました。
- ② 山下公園、港の見える丘公園や新港中央広場などでは、バラ園や美しい花壇が整備され、いつ訪れても緑や花が楽しめる質の高い管理が進んでおり、市民や観光客の目を楽しませています。
- ③ 都心臨海部は、多くの市民や観光客が訪れる横浜の顔であり、引き続き質の高い維持管理を進めながら、緑や花によりエリア全体の魅力を高めていくことが重要です。

3か年の総合評価

A

街の賑わいを生み出し、 観光・MICEにも貢献する緑の創出が進展

多くの市民が時間を過ごし、国内外からも多くの観光客が訪れるエリアである都心臨海部の都市公園、港湾緑地、街路樹などを中心に、質の高い緑や花の整備と管理を集中的に展開し、街の魅力の形成、賑わいづくりにつなげました。



- 民有地における緑化の助成：17件 [5か年の目標：65件]
- 公共施設・公有地での緑の創出：56か所 [5か年の目標：58か所]
- 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出：118か所 [5か年の目標：100か所]
- 3か年事業費累計：4,469百万円（うち横浜みどり税：2,501百万円） [5か年計画事業費：7,784百万円]

(6) 事業費・みどり税の執行状況

(単位：百万円)

	平成26年度 決算額	平成27年度 決算額	平成28年度 決算額	累計 (3か年)	5か年 計画事業費
取組の柱1	6,498	7,085	6,992	20,575	36,639
合計	1,118	1,611	1,476	4,205	6,719
取組の柱2	928	820	937	2,685	3,985
合計	429	148	305	882	1,661
取組の柱3	1,247	1,454	1,768	4,469	7,784
合計	654	809	1,038	2,501	4,639
広報の展開	16	17	16	49	80
合計	-	-	-	-	-
事業費総計	8,689	9,376	9,712	27,777	48,488
	2,200	2,569	2,819	7,588	13,019

※端数調整により、合計値は一致しない場合があります

【事業費欄の見方】

上段：事業費

下段：うち横浜みどり税

(7) みどり基金残額

(単位：百万円)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
前年度基金残額 [A]	653	733	865
基金積立額(みどり税等収入) [B]	2,281	2,700	2,717
みどり税充当事業執行額 [C]	2,200	2,569	2,819
みどり基金残額 [A]+[B]-[C]	733	865	763

※端数調整により、合計値は一致しない場合があります

(8) 3か年の事業・取組の実績一覧（実績累計）

施策方針/事業・取組		単位	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績	実績累計 (3か年)	5か年 目標	
取組の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む										
施策1 樹林地の確実な保全の推進										
事業①緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り										
1	緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り	緑地保全制度による新規指定面積	ha	101.7	102.5	62.4	-	-	266.6	500
		買取り面積	ha	18.2	24.1	24.7	-	-	67.0	108
施策2：良好な森を育成する取組の推進										
事業②生物多様性・安全性に配慮した森づくり										
2	森づくりガイドライン等を活用した森の育成	ガイドライン等を活用した維持管理	-	推進	推進	推進	-	-	-	推進
		(樹林地)	か所	109	121	131	-	-	361	-
		(公園)	か所	11	14	18	-	-	43	-
		保全管理計画の策定：(樹林地)	か所	3	3	2	-	-	8	15
	：(公園)	か所	5	3	4	-	-	12	10	
3	指定された樹林地における維持管理の支援	樹林地維持管理助成	件	132	103	83	-	-	318	650
4	生物多様性に配慮した防災性・安全性の向上	法面の整備	か所	1 (施工中)	3 (整備) 2 (施工中)	5 (整備)	-	-	8 (整備)	10
5	間伐材の有効利用	チップの貸出し	回	20	11	8	-	-	39	推進
事業③森を育む人材の育成										
6	森づくりを担う人材の育成	森づくり活動団体(個人)の育成：研修の実施	回	16	14	11	-	-	41	推進
		森づくりボランティアへの情報発信、広報、PRの充実：ニュースレターの発行	回	4	4	4	-	-	12	推進
7	森づくり活動団体への支援	(樹林地)	団体	22	23	34	-	-	79	延べ50
		(公園)	団体	9	9	10	-	-	28	延べ50
施策3：森と市民をつなげる取組の推進										
事業④市民が森に関わるきっかけづくり										
8	森の楽しみづくり	イベント実施及び広報活動：イベント等の実施	回	107	132	106	-	-	345	180
9	森に関する情報発信	市民の森・ふれあいの樹林ガイドマップ作成	地域	3	2	2	-	-	7	推進
		ウェルカムセンター(5館)の運営	-	推進	推進	推進	-	-	-	推進

施策方針/事業・取組		単位	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績	実績累計 (3か年)	5か年 目標	
取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる										
施策1 農に親しむ取組の推進										
事業①良好な農景観の保全										
10	水田の保全	水田保全承認面積	ha	119.7	120.1	120.8	-	-	120.8	125
		水源確保施設整備	か所	1	1	2	-	-	4	10
11	特定農業用施設保全契約の締結	契約の締結	件	12	14	14	-	-	40	制度運用
			m2	1,348	2,065	1,640	-	-	5,053	
12	農景観を良好に維持する取組の支援	良好に維持されている農地の面積	ha	704.3	718.0	723.0	-	-	723.0	680
		田園景観保全水路整備	地区	1	2	3	-	-	6	5
		共同利用設備の整備	件	2	1	2	-	-	5	25
13	多様な主体による農地の利用促進	長期貸付開始農地	ha	4.1	10.6	16.6	-	-	31.3	80
		(累計貸付農地)	ha	66.4	77.0	93.6	-	-	93.6	
事業②農とふれあう場づくり										
14	様々な市民ニーズに合わせた農園の開設	様々な市民ニーズに合わせた農園の開設	ha	5.7	4.6	5.6	-	-	15.9	25.8
		収穫体験農園の開設支援	ha	1.5	1.0	2.5	-	-	5.0	12.5
		市民農園の開設支援	ha	2.8	2.2	2.1	-	-	7.1	6.0
		農園付公園の整備	ha	1.4	1.4	1.0	-	-	3.8	7.3
15	市民が農を楽しみ支援する取組の推進	農体験教室などの実施	回	94	89	87	-	-	270	500
		めぐりツアーの開催	回	3	3	4	-	-	10	20
		農ある地域づくり協定実施件数	件	-	2	1	-	-	3	4
		農体験講座	回	5	5	5	-	-	15	25
施策2 地産地消の推進										
事業③身近に感じる地産地消の推進										
16	地産地消にふれる機会の拡大	直売所等の支援	件	4	11	10	-	-	25	52
		青空市運営支援	件	4	5	5	-	-	14	25
		緑化用植物の生産・配布	本	27,533	26,108	26,560	-	-	80,201	125,000
		情報発信・PR活動	-	推進	推進	推進	-	-	推進	推進
17	地産地消を広げる人材の育成	はまふうどコンシェルジュの活動支援	件	14	22	27	-	-	63	100
		フォーラムの開催	回	1	1	1	-	-	3	5
事業④市民や企業と連携した地産地消の展開										
18	市民や企業等との連携	企業等との連携	件	5	8	12	-	-	25	50
		ビジネス創出支援	件	推進	5	5	-	-	10	25
		学校給食での市内産農産物の利用促進	-	推進	推進	推進	-	-	推進	推進

施策方針/事業・取組		単位	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績	実績累計 (3か年)	5か年 目標	
取組の柱3 市民が実感できる緑をつくる										
施策1 市民が実感できる緑を創出する取組の推進										
事業①私有地での緑の創出										
19	私有地における緑化の助成	緑化の助成	件	5	5	7	-	-	17	65
20	建築物緑化保全契約の締結	緑地保全契約締結	件	5	7	4	-	-	16	制度運用
			ha	約2.4	約1.4	約5.9	-	-	約9.7	
21	名木古木の保存	新規指定	本	19	17	9	-	-	45	推進
		維持管理の助成	本	51	47	43	-	-	141	
22	人生記念樹の配布	苗木の配布	本	7,752	7,865	7,476	-	-	23,093	40,000
事業②公共施設・公有地での緑の創出										
23	公共施設・公有地での緑の創出・管理	緑の創出	か所	16	22	18	-	-	56	58
		創出した緑の維持管理	件	95	69	70	-	-	234	推進
24	公有地化によるシンボリックな緑の創出	事業推進	か所	1 (事業推進)	1 (事業推進)	4 (事業推進)	-	-	4 (事業推進)	5
25	いきいきとした街路樹づくり	18区で推進	- (路線)	推進 (160)	推進 (206)	推進 (325)	-	-	推進	18区で 推進
施策2 緑を楽しむ市民の盛り上がりを醸成する取組の推進										
事業③市民協働による緑のまちづくり										
26	地域緑のまちづくり	地域緑化推進事業	地区	22	26	29	-	-	35	46
		(新規地区)	地区	6	4	9	-	-	19	
		(継続地区)	地区	16	22	20	-	-	16	
事業④子どもを育む空間での緑の創出										
27	保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出	緑の創出	か所	50	32	36	-	-	118	100
		芝生等の維持管理	-	推進	推進	推進	-	-	推進	推進
事業⑤緑や花による魅力・賑わいの創出										
28	都心臨海部の緑花による賑わいづくり	都心臨海部の緑花	か所	6	4	12	-	-	22	推進
		緑化の維持管理	か所	3	4	8	-	-	15	推進
効果的な広報の展開										
事業①市民の理解を広げる広報の展開										
29	計画の周知や実績報告	計画の目的、内容及び進捗状況を実感していただけるよう、多様な手段で広報活動を推進	-	推進	推進	推進	-	-	推進	推進



(9) 3か年の事業・取組の実績一覧（事業費累計）

【事業費欄の見方】
 上段：事業費
 下段：うち横浜みどり税

（単位：百万円）

施策方針/事業・取組	平成 26 年度 決算額	平成 27 年度 決算額	平成 28 年度 決算額	平成 29 年度	平成 30 年度	累計 (3 か年)	5 か年 事業費
取組の柱 1 市民とともに次世代につなぐ森を育む							
施策 1 樹林地の確実な保全の推進							
事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り	5,878 677	6,390 1,151	6,250 913	- -	- -	18,518 2,741	32,494 3,556
1 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り	5,878 677	6,390 1,151	6,250 913	- -	- -	18,518 2,741	32,494 3,556
施策 2：良好な森を育成する取組の推進							
事業② 生物多様性・安全性に配慮した森づくり	554 412	624 427	672 533	- -	- -	1,850 1,372	3,745 2,963
2 森づくりガイドライン等を活用した森の育成	392 251	431 281	476 337	- -	- -	1,299 869	2,100 1,323
3 指定された樹林地における維持管理の支援	89 89	76 76	65 65	- -	- -	230 230	600 600
4 生物多様性に配慮した防災性・安全性の向上	68 68	114 68	128 128	- -	- -	310 264	1,000 1,000
5 間伐材の有効利用	5 4	3 2	4 3	- -	- -	12 9	45 40
事業③ 森を育む人材の育成	12 12	12 12	13 13	- -	- -	37 37	69 69
6 森づくりを担う人材の育成	9 9	6 6	6 6	- -	- -	21 21	41 41
7 森づくり活動団体への支援	3 3	6 6	7 7	- -	- -	16 16	28 28
施策 3：森と市民をつなげる取組の推進							
事業④ 市民が森に関わるきっかけづくり	54 17	59 21	57 18	- -	- -	170 56	330 130
8 森の楽しみづくり	14 14	17 17	16 16	- -	- -	47 47	100 100
9 森に関する情報発信	40 3	42 3	41 2	- -	- -	123 8	230 30
取組の柱 1 合計	6,498 1,118	7,085 1,611	6,992 1,476	- -	- -	20,575 4,205	36,639 6,719

※ 端数調整により、合計値は一致しないことがあります。

【事業費欄の見方】
 上段：事業費
 下段：うち横浜みどり税

(単位：百万円)

施策方針/事業・取組	平成 26 年度 決算額	平成 27 年度 決算額	平成 28 年度 決算額	平成 29 年度	平成 30 年度	累計 (3 年)	5 年 事業費
取組の柱 2 市民が身近に農を感じる場をつくる							
施策 1 農に親しむ取組の推進							
事業① 良好な農景観の保全	147 75	164 83	186 78	- -	- -	497 236	1,087 560
10 水田の保全	49 35	36 34	58 33	- -	- -	143 102	343 183
11 特定農業用施設保 全契約の締結	1 0	1 0	1 0	- -	- -	3 0	5 -
12 農景観を良好に維 持する取組の支援	75 17	96 17	96 15	- -	- -	267 49	562 200
13 多様な主体による 農地の利用促進	23 23	31 31	31 30	- -	- -	85 84	177 177
事業② 農とふれあう場づくり	750 354	613 65	704 227	- -	- -	2,067 646	2,576 1,101
14 様々な市民ニーズ に合わせた農園の 開設	739 354	602 65	695 227	- -	- -	2,036 646	2,514 1,101
15 市民が農を楽しみ 支援する取組の推 進	11 0	11 0	9 0	- -	- -	31 0	62 -
施策 2 地産地消の推進							
事業③ 身近に感じる地産地消 の推進	28 0	36 0	34 0	- -	- -	98 0	257 -
16 地産地消にふれる 機会の拡大	28 0	36 0	34 0	- -	- -	98 0	257 -
事業④ 市民や企業と連携した 地産地消の展開	3 0	7 0	13 0	- -	- -	23 0	65 -
17 地産地消を広げる 人材の育成	2 0	3 0	3 0	- -	- -	8 0	22 -
18 市民や企業等との 連携	1 0	4 0	11 0	- -	- -	16 0	43 -
取組の柱 2 合計	928 429	820 148	937 305	- -	- -	2,685 882	3,985 1,661

※ 各端数調整により、合計値は一致しないことがあります。

【事業費欄の見方】
 上段：事業費
 下段：うち横浜みどり税

(単位：百万円)

施策方針/事業・取組	平成 26 年度 決算額	平成 27 年度 決算額	平成 28 年度 決算額	平成 29 年度	平成 30 年度	累計 (3 年)	5 年 事業費
取組の柱3 市民が実感できる緑をつくる							
施策1 市民が実感できる緑を創出する取組の推進							
事業① 民有地での緑の創出	31 18	28 15	25 12	- -	- -	84 45	306 245
19 民有地における緑化の助成	2 0	2 1	2 0	- -	- -	6 1	148 123
20 建築物緑化保全契約の締結	0 0	0 0	0 0	- -	- -	0 0	- -
21 名木古木の保存	19 16	14 11	11 9	- -	- -	44 36	109 100
22 人生記念樹の配布	11 3	12 4	12 4	- -	- -	35 10	50 22
事業② 公共施設・公有地での緑の創出	776 283	691 491	1,008 367	- -	- -	2,475 1,141	4,465 1,919
23 公共施設・公有地での緑の創出・管理	213 0	413 213	286 52	- -	- -	912 265	1,370 150
24 公有地化によるシンボリックな緑の創出	301 21	1 1	445 38	- -	- -	747 60	1,650 324
25 いきいきとした街路樹づくり	262 262	277 277	277 277	- -	- -	816 816	1,445 1,445
施策2 緑を楽しむ市民の盛り上がりを醸成する取組の推進							
事業③ 市民協働による緑のまちづくり	196 196	151 151	165 165	- -	- -	512 512	931 931
26 地域緑のまちづくり	196 196	151 151	165 165	- -	- -	512 512	931 931
事業④ 子どもを育む空間での緑の創出	70 10	64 9	57 11	- -	- -	191 30	463 75
27 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出	70 10	64 9	57 11	- -	- -	191 30	463 75
事業⑤ 緑や花による魅力・賑わいの創出	173 146	519 143	513 483	- -	- -	1,205 772	1,620 1,470
28 都心臨海部の緑花による賑わいづくり	173 146	519 143	513 483	- -	- -	1,205 772	1,620 1,470
取組の柱3 合計	1,247 654	1,454 809	1,768 1,038	- -	- -	4,469 2,501	7,784 4,639

※端数調整により、合計値は一致しないことがあります。

【事業費欄の見方】
 上段：事業費
 下段：うち横浜みどり税

(単位：百万円)

施策方針/事業・取組	平成 26 年度 決算額	平成 27 年度 決算額	平成 28 年度 決算額	平成 29 年度	平成 30 年度	累計 (3 年)	5 年 事業費
効果的な広報の展開							
事業① 市民の理解を広げる広 報の展開	16 -	17 -	16 -	- -	- -	49 -	80 -
29 計画の周知や実績 報告	16 -	17 -	16 -	- -	- -	49 -	80 -
広報の展開 合計	16 -	17 -	16 -	- -	- -	49 -	80 -

横浜みどりアップ計画 事業費総計							
(単位：百万円)							
平成 26 年度 決算額	平成 27 年度 決算額	平成 28 年度 決算額	平成 29 年度	平成 30 年度	累計 (3 年)	5 年 事業費	
8,689	9,376	9,712	-	-	27,777	48,488	
2,200	2,569	2,819	-	-	7,588	13,019	

※端数調整により、合計値は一致しないことがあります。

—— みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜 ——

横浜みどりアップ計画 3か年の評価・提案

横浜みどりアップ計画市民推進会議 平成28年度報告書（概要）

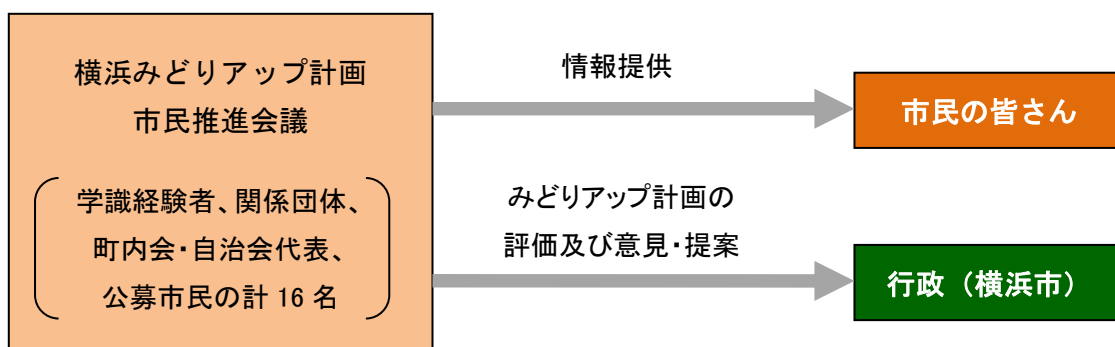


1 横浜みどりアップ計画市民推進会議

横浜みどりアップ計画市民推進会議は、市民参加の組織により、みどりアップ計画の評価及び意見・提案、市民の皆さまへの情報提供等を行うことを目的として、平成21年に設置され、平成24年からは条例設置の附属機関に位置付けられました。これまでに全体会議や各種部会の開催に加え、参加市民を公募したオープンフォーラムや現地調査を実施し、市民意見の聴取にも努め、計画の評価・提案をおこなってきました。

みどりアップ計画を推進するうえで、市民推進会議のこのような取組は大きな役割を果たしており、2期目のみどりアップ計画についても、継続して活動することとなりました。

平成26年度からは新たな委員も含め、学識経験者や関係団体、町内会・自治会代表、公募市民の計16名で活動しています。（40頁に委員名簿を掲載）



横浜市附属機関設置条例第2条第2項本文：

附属機関(※)の担任する事務は、別表担当事務の欄に掲げるとおりとする。

別表(抜粋)

執行機関	附属機関	担当事務	委員の定数
(中 略)			
市長	横浜みどりアップ計画市民推進会議	横浜市域の樹林地及び農地の保全並びに緑化の推進を図ることを目的とする横浜みどりアップ計画に係る施策及び事業についての情報提供、評価等に関する事務	20人以内
(以下省略)			

※附属機関：法律又は条例に基づき設置し、行政執行のために必要な審査、調査等を行う機関。会議において審議、協議した結果、意見を取りまとめたり市に提言等を行う。

2 市民推進会議 平成 28 年度の活動実績

① 市民推進会議(全体会議)

市民推進会議の全体会議において、部会の構成や調査の実施など年間の活動内容を確認し、横浜みどりアップ計画の内容、進捗状況について説明を受けて、質疑応答、意見交換を行いました。

第 24 回市民推進会議(平成 28 年6月9日)

- ・横浜みどりアップ計画平成 27 年度の事業実績及び平成 28 年度の事業内容について
- ・市民推進会議 平成 27 年度報告書(案)について
- ・市民推進会議 平成 28 年度の取組について

第 25 回市民推進会議(平成 29 年2月6日)

- ・横浜みどりアップ計画の進捗状況について
- ・市民推進会議 平成 28 年度報告書について



市民推進会議 全体会議の様子

② 施策別専門部会

取組の柱ごとに施策別専門部会を設置し、事業分野ごとに、詳細に説明を受け、意見交換、提案検討を行いました。

第9回「森を育む」施策を検討する部会(平成 29 年3月7日)

- ・横浜みどりアップ計画「森を育む」施策の評価・提案について

第9回「農を感じる」施策を検討する部会(平成 29 年3月 16 日)

- ・横浜みどりアップ計画「農を感じる」施策の評価・提案について

第9回「緑をつくる」施策を検討する部会(平成 29 年3月9日)

- ・横浜みどりアップ計画「緑をつくる」施策の評価・提案について



「森を育む」施策を検討する部会



「農を感じる」施策を検討する部会



「緑をつくる」施策を検討する部会

③ 調査部会(現地調査)

〈第16回調査部会「みどりアップを見に行こうツアー」〉

日 時 平成28年9月17日(土) 午前9時30分～午後0時30分開催

参加者 委員10名、一般市民21名(応募者37名)

調査場所 地域緑のまちづくり 柿の木台地区(青葉区柿の木台)

もえぎ野ふれあいの樹林(青葉区もえぎ野)

恩田町の水田(青葉区恩田町)

(ア)「市民が実感できる緑をつくる」取組が実施されている地域緑のまちづくりを調査

緑化の整備を行った柿の木台地区を歩きながら、みどりアップ推進課による事業説明、柿の木台地区で地域緑のまちづくりを行う「やもと農塾」会長による緑化活動の説明



「やもと農塾」が作製したベンチ付きのお花箱(木製プランター)に座りながら説明を聞く参加者



「やもと農塾」代表による説明

(イ)「市民とともに次世代につなぐ森を育む」取組が実施されている樹林地を調査

もえぎ野ふれあいの樹林を歩きながら、みどりアップ推進課による事業説明、もえぎ野ふれあいの樹林愛護会による維持管理内容の説明、質疑応答



もえぎ野ふれあいの樹林愛護会が説明を行っている様子



取組前



取組後

維持管理の取組によって多様な植物が戻ってきた斜面地

(ウ)「市民が身近に農を感じる場をつくる」取組が実施されている水田を調査

みどりアップ計画により保全された水田を歩きながら、北部農政事務所による事業説明、水利組合の方による水田で行う管理や活動内容の説明、質疑応答



恩田町の水田の畦（あぜ）道の踏査



各テーブルで行う市民推進会議委員と一般参加者の意見交換の様子

(エ)意見交換会

「ハマッ子」直売所 四季彩館 交流施設にて、当日の調査内容について、一般参加者からの感想や質疑応答・意見交換

<参加者の主な意見>

- ・個人が保有しているだけでは荒れてしまう林を、市が入ってきれいに手入れをし、残していくことは良いと思った。
- ・横浜市にも自然豊かな田園風景が広がっていることに驚いた。
- ・横浜みどり税があることも知らなかったが、横浜市は緑を大切にしているという意識があるということ、市民みんなが知ってくれたら良いと思った。
- ・取組を行う地域の方々の熱意がとても感じられた。
- ・地域緑のまちづくりの緑化のランニングコストを全部賄うのは、出し過ぎではないかと思う。地区センターで負担すべきことではないか、線引きがあやふやな点を感じた。

④ 広報・見える化部会

平成25年度までの「広報部会」、「見える化部会」を合わせ、みどりアップ計画やみどり税についての情報提供のあり方の検討や広報誌の編集を行っています。

広報誌は平成26年度から「みどりアップQ」として「濱RYOKU」からリニューアルし、平成28年度は第7～9号を発行しました。駅や主要な公共施設のPRボックスや、各区役所・土木事務所・公園緑地事務所等の公共施設で配布しています。

第29回広報・見える化部会(平成28年6月20日)

・みどりアップQ 第7号案について

第30回広報・見える化部会(平成28年9月9日)

・みどりアップQ 第8号案について

第31回広報・見える化部会(平成28年11月24日)

・みどりアップQ 第9号案について

第32回広報・見える化部会(平成29年3月14日)

・横浜みどりアップ計画「効果的な広報の展開」の評価・提案について

・みどりアップQ 第10号のテーマについて

○みどりアップQ第7号

《発行日》平成28年9月

《発行部数》21,000部

《テーマ》飯島市民の森における森づくり



○みどりアップQ第8号

《発行日》平成28年12月

《発行部数》21,000部

《テーマ》子ども達の米作り体験学習



○みどりアップQ第9号

《発行日》平成29年2月

《発行部数》21,000部

《テーマ》みどりアップを見に行こうツアー



3 横浜みどりアップ計画 3か年の評価、提案

市民推進会議では、平成26年度から28年度までの3年間に行われたみどりアップ計画の「市民とともに次世代につなぐ森を育む(「森を育む」)」、「市民が身近に農を感じる場をつくる(「農を感じる」)」、「市民が実感できる緑をつくる(「緑をつくる」)」の施策と、みどりアップ計画を市民の皆さまに周知するための「広報・PR」について、現地調査で市民や活動団体などからいただいた意見等を踏まえて、評価・検証を行いました。

なお、みどりアップ計画で進めている事業・取組には、横浜みどり税の導入時に定めた使途に沿って横浜みどり税を充当している事業・取組と、横浜みどり税を充当せずに進めている事業・取組がありますが、市民推進会議では市民の皆さまが負担している横浜みどり税を充当している事業・取組を中心に評価・検証を行いました。

◆計画の体系◆

●：横浜みどり税を充当している事業・取組

取組の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

施策1 樹林地の確実な保全の推進	事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り	●
施策2 良好な森を育成する取組の推進	事業② 生物多様性・安全性に配慮した森づくり	●
	事業③ 森を育む人材の育成	●
施策3 森と市民とをつなげる取組の推進	事業④ 市民が森に関わるきっかけづくり	●

取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

施策1 農に親しむ取組の推進	事業① 良好な農景観の保全	●
	事業② 農とふれあう場づくり	●
施策2 地産地消の推進	事業③ 身近に感じる地産地消の推進	
	事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開	

取組の柱3 市民が実感できる緑をつくる

施策1 市民が実感できる緑を創出する取組の推進	事業① 民有地での緑の創出	●
	事業② 公共施設・公有地での緑の創出	●
施策2 緑を楽しむ市民の盛り上げりを醸成する取組の推進	事業③ 市民協働による緑のまちづくり	●
	事業④ 子どもを育む空間での緑の創出	●
	事業⑤ 緑や花による魅力・賑わいの創出	●

効果的な広報の展開

事業① 市民の理解を広げる広報の展開	
--------------------	--

◆評価・提案の概要◆

計画全体として、柱ごとに数多くの取組で着実な推進が図られています。

「取組の柱1：市民とともに次世代につなぐ森を育む」については、みどりアップ計画の根幹の事業である樹林地の指定は、3年間の目標量(300ha)に近いペースで進捗しています。来年度の目標の達成に向け引き続き取組を進めてください。また、良好な森を育成する取組や、森と市民とをつなげる取組が着実に進められたことを評価します。

「取組の柱2：市民が身近に農を感じる場をつくる」については、水田保全奨励など、主要な取組については概ね目標を達成していますが、共同利用設備の整備など目標を達成できていない取組もあります。横浜に残る貴重な水田景観の保全等に向け、引き続き取組を進めてください。また、多様な農園があることで、市民の多様なニーズに応じることができるので、今後もそれぞれの農園の開設を進めてください。

「取組の柱3：市民が実感できる緑をつくる」については、民有地における緑化の助成では、目標値の半分程度の件数にとどまっています。今後は、より市民や事業者にご利用しやすいような制度への見直しも必要かもしれません。保育園・幼稚園・小学校での緑の創出については、多様なかたちで、子どもが緑にふれる場を生み出していることを評価します。公共施設や都心臨海部などで創出された緑は、今後も良好に維持していくことが重要です。

「効果的な広報の展開」については、アニメーションを活用したPRなど、新たな試みが広がる中で、より市民の視点からの広報が行われるようになったことを評価します。3か年で具体化された多くの取組を、引き続き、作っただけでなく有効に活用しながら、みどりアップ計画の成果を一層実感してもらうことが重要です。

みどりアップ計画は、関係する市民や団体、事業分野が多岐にわたるので、市民生活により身近な区役所などと連携した取組が進むことを期待します。

平成28年度は、みどりアップ計画の5か年の折り返しの年でしたが、目標達成に向けて取組が着実に推進されることを期待します。

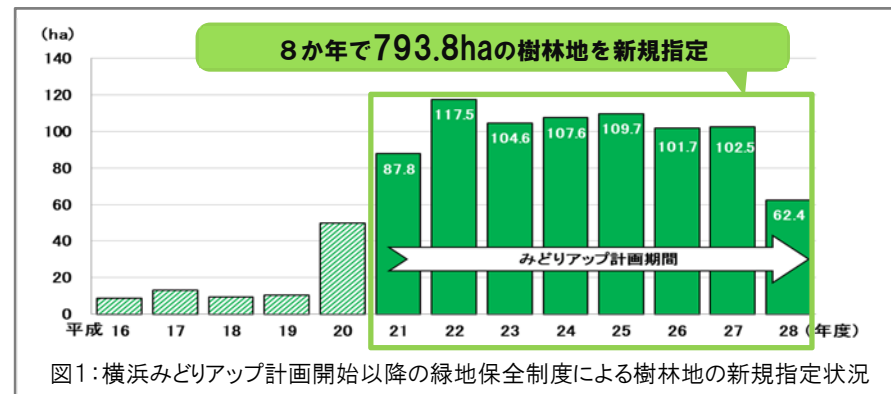
これからの緑の取組の検討の方向性について

(1) 考慮する事項

① これまでの取組の成果・課題

柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

- ・みどりアップ計画開始以降、793.8haの樹林地を緑地保全制度により新規指定 (H21-H25: 527.2ha、H26-H28: 266.6ha)
- ・着実に指定を進めてきた一方で、未指定の民有樹林地は約1,500ha残っている
- ・比較的小規模な樹林地で指定の働きかけを進めている案件が多くなっており、大面積での指定案件は少なくなっている
- ・緑地保全制度による指定地での買取りの希望に対して確実に対応し、191.6haの樹林地を市有地とした (H21-H25: 124.6ha、H26-H28: 67ha)
- ・これまでの指定推進により、今後買取りが発生する可能性のある既指定樹林地の総量は約450ha (H28年度末)



柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

- ・120.8haの水田に対して水田保全奨励を実施
- ・これまで37.3haの農園の開設支援・整備を進め、市民が農とふれあう場が着実に増加した

柱3 市民が実感できる緑をつくる

- ・地域が主体となり、地域にふさわしい緑を創出する「地域緑のまちづくり」は35地区で進展
- ・国内外から多くの観光客が訪れる都心臨海部で、まちの賑わいを生み出し、観光・MICEにも貢献する緑花の創出が進展
- ・これまでに創出した公共施設の緑や、多くの市民や観光客が訪れる都心臨海部での緑花など、引き続き質の高い維持管理をすることが必要
- ・民有地緑化助成は、平成26年度にさらに内容を拡充したが、助成実績が伸び悩んでいる

効果的な広報の展開

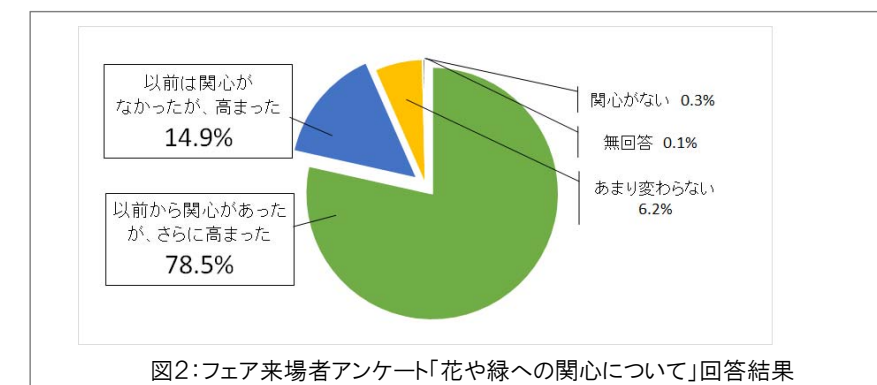
- ・「横浜みどりアップ計画」を知っている 約42% ・「横浜みどり税」を知っている 約45% (平成28年度「横浜みどりアップ計画」や「横浜みどり税」の広報に関する調査より)

② 市民の声

- ・取組の柱ごとに数多くの事業が着実に推進されている
- ・樹林地の緑地保全制度による指定面積の数字だけでは成果を実感しにくいので、保全施策の成果をどのように見せていくかが今後の課題
- ・市民の森は、よく手入れされているが、それ以外に管理されていない里山も多くある
- ・緑は、買い取った後の維持管理が重要な課題だと考えている。都市全体で、良質な緑を担保しつつ、まちづくりをすることが大切
- ・樹林地所有者への維持管理の支援策を充実させる必要がある
- ・多様な農園があることで、市民の様々なニーズに応えることができるので、今後も推進してほしい
- ・全国都市緑化よこはまフェアの会場では、きれいな緑花が生み出されたが、フェアの期間だけで終わらず、期間後も定着させてほしい

③ 近年の社会情勢の変化等

- ・平成28年に本市の水や緑を一体的にとらえた総合的な計画である「横浜市水と緑の基本計画」を改定し、「多様なライフスタイルを実現できる水・緑豊かな都市環境」を目標像に掲げた
- ・人口減少・少子高齢社会を迎えている一方で、宅地開発や土地利用の転換などは今後も一定程度継続すると考えられる
- ・平成29年6月に「横浜市気候変動適応方針」を策定した
- ・都市農業振興基本法 (H27.4 施行) に基づく、都市農業振興基本計画 (H28.5 策定) により、改めて都市農地の多面的な機能が評価された
- ・全国都市緑化よこはまフェアの来場者数は600万人を超え、花や緑により、多くの観光客を市内外から呼び込むとともに、地域での花や緑に関する活動が活発に行われた
- ・フェアをきっかけに、市民の花や緑に対する意識や関心が高まった (フェア来場者アンケートで「高まった」と回答した人が約93%)



(2) これからの緑の取組の検討の視点

- ① 緑豊かな横浜の環境を次世代に引き継ぐため、これまでの取組の成果や課題を踏まえ、計画の理念や目標像、基本的な枠組みや主な取組は継承
- ② 保全した樹林地・農地や創出した緑や花が増えており、緑の多面的機能が発揮できるよう適切な維持・保全・活用を推進
- ③ 全国都市緑化よこはまフェアの成果を生かし、市民が緑を実感でき、まちの魅力を高める取組を強化

(3) 柱ごとの方向性

① 森の保全・育成に関する施策（現行計画：柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む）

都市における森には、良好な景観の形成、ヒートアイランド現象の緩和、地球温暖化の適応策としての浸水対策などの防災・減災、市民のレクリエーションの場など、多くの役割があります。この多様な機能を一層高められるよう、森の保全、育成、活用に取り組みます

<具体的な取組の方向性>

- ・緑の 10 大拠点内の樹林地や、市街化区域内の身近なまとまりのある樹林地の指定を重点的に推進。近年の新規指定実績や土地所有者一人当たりの樹林地面積が小規模化している状況などを踏まえ、指定目標を設定
- ・相続などの際の既指定樹林地の買取り希望に着実に対応
- ・樹林地の多面的機能を発揮するために、地域の特性にあわせた管理を引き続き実施
- ・土地所有者の維持管理負担の軽減及び指定促進のため、樹林地の安全対策等も含め、維持管理に対する支援を充実

② 農に関する施策（現行計画：柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる）

農地は、新鮮な農畜産物の供給の場であることに加えて、里山などの良好な景観の形成、大雨の流出抑制や災害時の避難場所になるなど防災・減災の役割も有しています。さらに、農業体験や学習、交流の場などとしての活用も期待されています。このような農地の役割に着目しながら、市民が身近に農を感じる場や機会をつくる取組を進めます

<具体的な取組の方向性>

- ・都市農業推進プラン(※1)に基づく取組とあわせ、水田の保全や市民農園の開設支援、地産地消などの取組を継続
- (※1)都市農業推進プランについても、平成 31 年度以降の取組について検討を進めます

③ 緑花に関する施策（現行計画：柱3 市民が実感できる緑をつくる）

まちなかの緑や花は、美しく潤いのある景観を形成するとともに、まちの魅力や賑わいづくりにも貢献します。また、緑や花をきっかけとした様々な地域活動も行われています。全国都市緑化よこはまフェアの成果も継承しながら、多くの人を訪れる市街地や、生活に身近な住宅地などでの緑や花の創出、育成を進めます

<具体的な取組の方向性>

- ・全国都市緑化よこはまフェアをきっかけとした『魅せる』花や緑、街路樹によるまちの魅力・賑わいづくりを強化。また、緑に関する市民の関心の高まりを継続するため、区と連携した取組を実施
- ・地域コミュニティの活性化にもつながる、地域での身近な緑の創出を継続

④ 効果的な広報の展開

- ・戦略的な広報の展開により、市民の認知度を高めるとともに緑の取組に対する理解を広げ、市民の主体的な参加へつなげる

(4) 今後のスケジュールについて（予定）

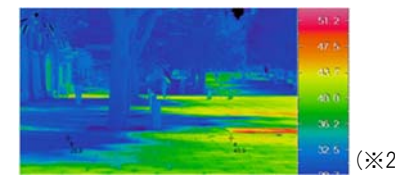
本日いただいた御意見や、横浜の緑に関する市民・土地所有者意識調査の結果、環境創造審議会、市会での御意見などを踏まえ、平成 30 年 1 月以降の税制調査会にて、「これからの緑の取組（素案）」を報告する予定です。

年度	月	
H29	5 月	【市会 第2回定例会】3か年の事業・取組の評価・検証
	6 月	
	7 月	横浜の緑に関する市民・土地所有者意識調査
	8 月	
	9 月	【市会 第3回定例会】「これからの緑の取組」の検討の方向性を報告
	10 月	環境創造審議会へ「これからの緑の取組」の検討の方向性を報告
	11 月	税制調査会「横浜みどりアップ計画」の現状を報告
	12 月	【市会 第4回定例会】「これからの緑の取組（素案）」報告
	1 月以降	「これからの緑の取組（素案）」に対する市民意見募集 税制調査会へ「これからの緑の取組（素案）」報告 環境創造審議会へ「これからの緑の取組（素案）」報告

【参考】緑の多面的機能

環境保全機能

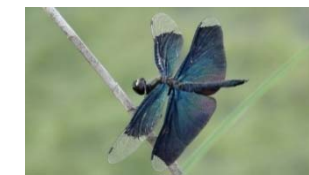
ヒートアイランド現象の緩和、大気浄化、騒音防止、防塵等の効果で、都市の過酷な環境を改善し、市民の生活環境を保全



(※2)

生物多様性保全機能

樹林地や農地が、健全に保たれ、まとまりやつながりを持つことで、生物多様性を保全



まちの魅力を高め、賑わいをもたらす機能

都市の中の魅力的な緑や花により、賑わいの創出や不動産価値向上など、都市全体の魅力向上に寄与



景観形成機能

快適で美しく潤いのある都市景観や自然と歴史に基づく個性と風格ある都市景観の形成に寄与



貯留・涵養機能

樹林地や農地などの緑は、雨を大地にしみ込ませ、蓄えることで、河川や地下水の水量を豊かにし、健全な水循環に寄与



防災・減災機能

雨水のピーク流出量を抑制して浸水被害を軽減。また、オープンスペースとして避難場所や火災延焼防止の機能



(※3)

環境教育・コミュニティ機能

次世代を担う子どもたちの自然体験の場と機会を提供し、住民の交流の場となり地域コミュニティの強化に寄与



レクリエーション機能

散策や農体験など多様なレクリエーション利用を通じた市民の身近な遊び場、憩いの場、健康づくりの場としての機能



- (※2) グランモール公園での熱環境調査の写真：赤いほど温度が高く、青いほど低い
- (※3) 国土交通省資料より、阪神淡路大震災の神戸市長田区大國公園の焼け止まり効果：赤円が公園、公園から左下側のまちは火災を免れた

横浜の緑に関する市民意識調査及び 土地所有者意識調査の結果について

横浜市では、緑の減少に歯止めをかけ、「緑豊かなまち横浜」を次世代に継承するため、財源の一部に「横浜みどり税」を活用した、「横浜みどりアップ計画」を進めています。

この取組の成果を検証しながら、今後の緑に関する施策を検討する際の基礎資料とするため、横浜の「緑や花」に関する意識や樹林地・農地を所有・維持するうえでの課題等を伺う調査を行いました。

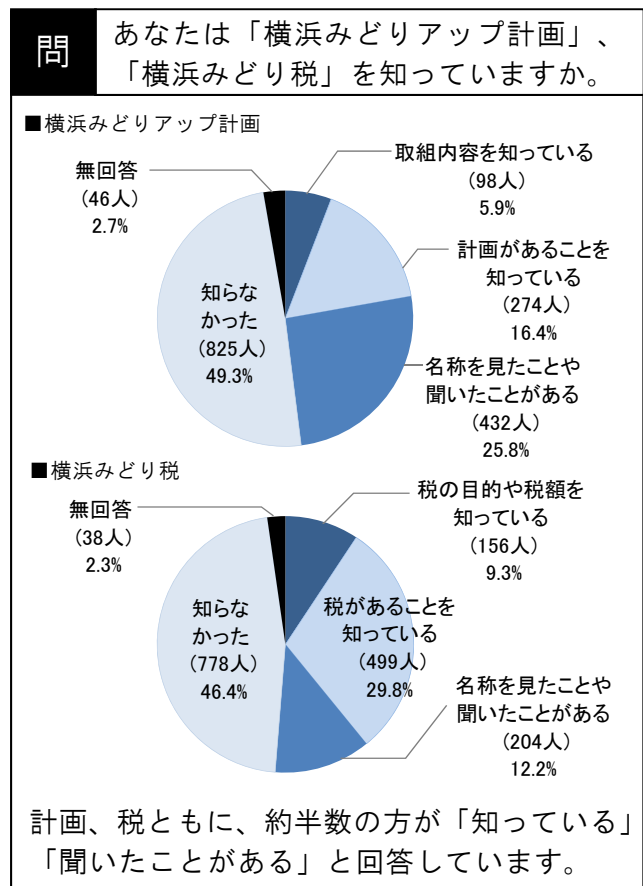
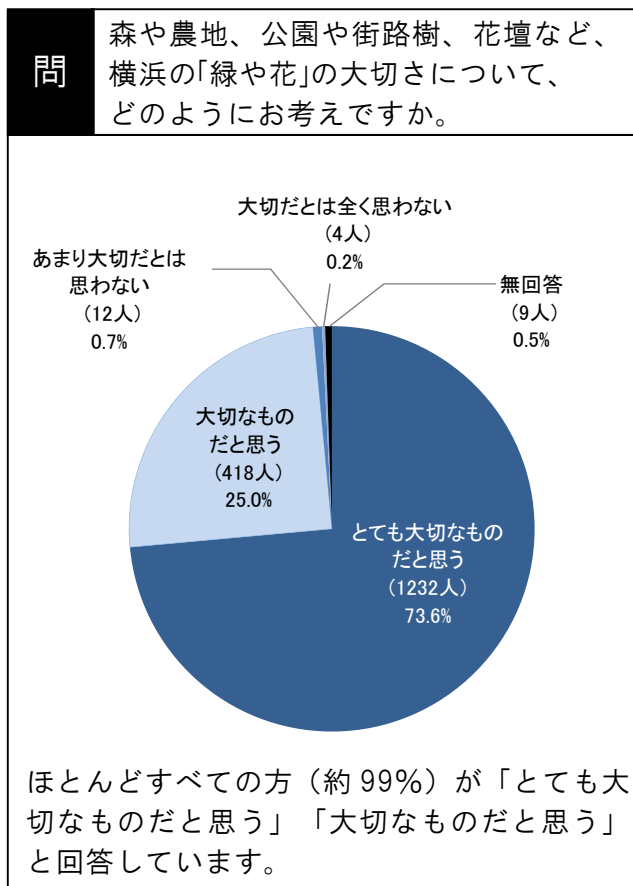
この度、調査結果がまとまりましたので、お知らせします。今後、分析を行い、具体的な施策の検討に活用していきます。

横浜の緑に関する市民意識調査

1 調査概要

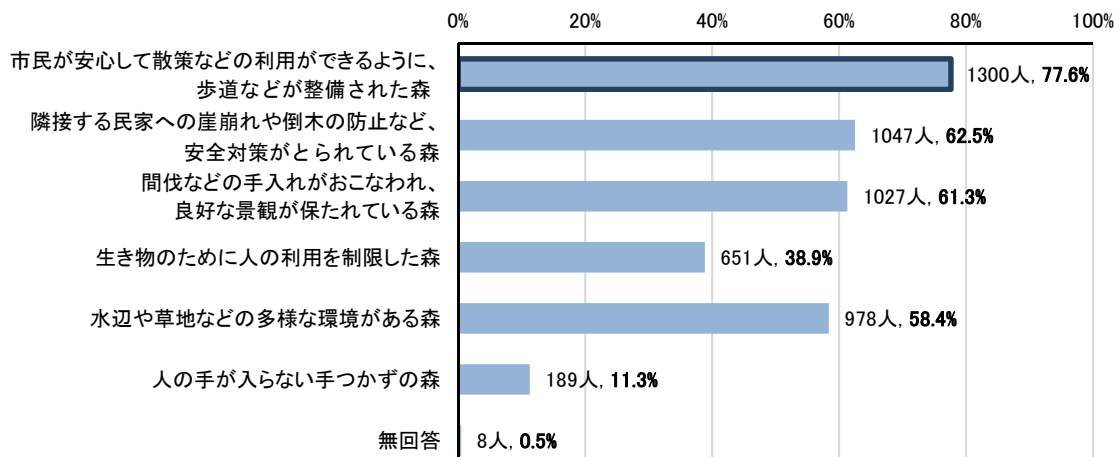
- (1) 調査対象 市民 5,000 人（住民基本台帳の満 20 歳以上の市民から無作為抽出）
- (2) 実施期間 平成 29 年 7 月 6 日（木）から 21 日（金）まで
（7 月 31 日までに到着したものを集計）
- (3) 調査項目 森や農地、街なかの緑など、横浜の「緑や花」の大切さ、どのような緑があると良いか、緑との関わり方等
- (4) 回収数 1,675 票（回収率 33.5%）

2 回答結果の一例



問

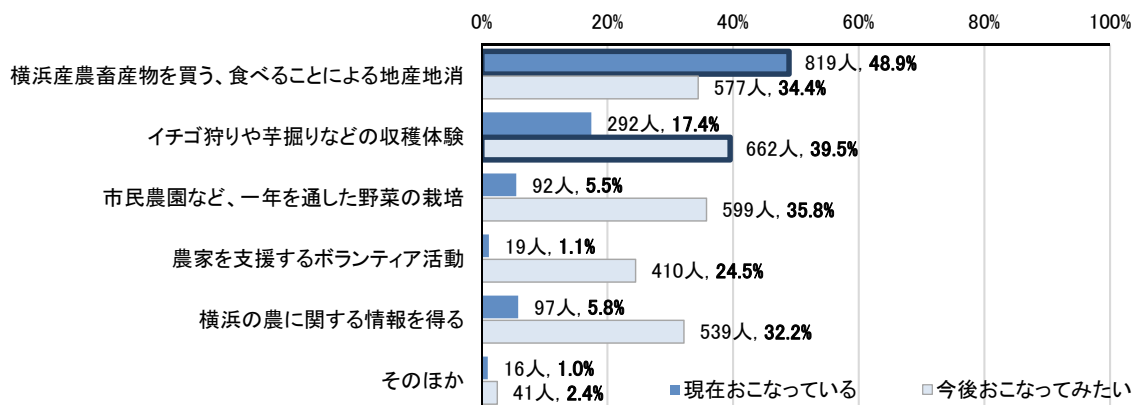
どのような森があったら良いと思いますか。（複数回答可）



「市民が安心して散策などの利用ができるように、歩道などが整備された森」が最も多い回答（約78%）でした。

問

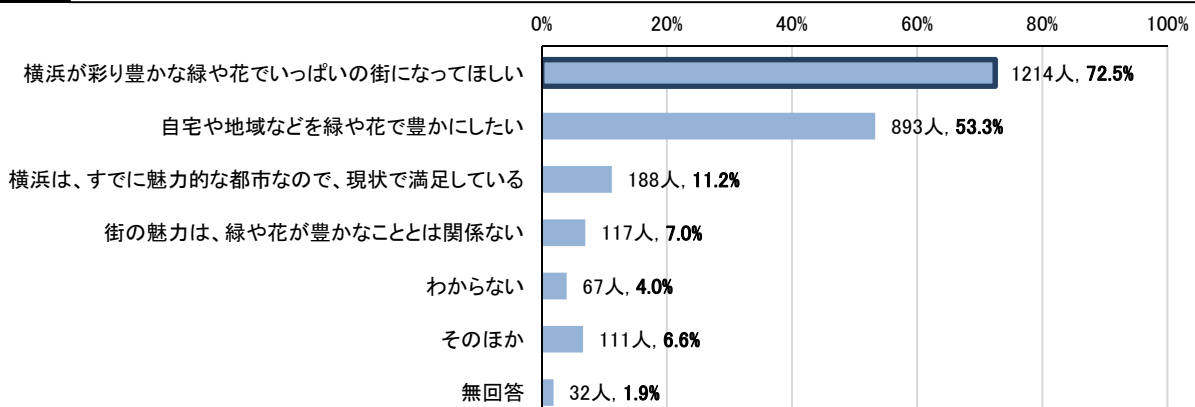
農に関することについて、現在おこなっていること、今後おこなってみたいことはどんなことですか。（複数回答可）



現在おこなっていることは、「横浜産農畜産物を買う、食べることによる地産地消」が最も多い回答（約49%）でした。今後おこなってみたいことは、「イチゴ狩りや芋掘りなどの収穫体験」が最も多い回答（約40%）でした。

問

横浜市では、緑や花による街の魅力づくり、賑わいの創出にも取り組んでおり、第33回全国都市緑化よこはまフェアを開催しました。このことに関連して、あなたの考えについて、あてはまるものはどれですか。（複数回答可）



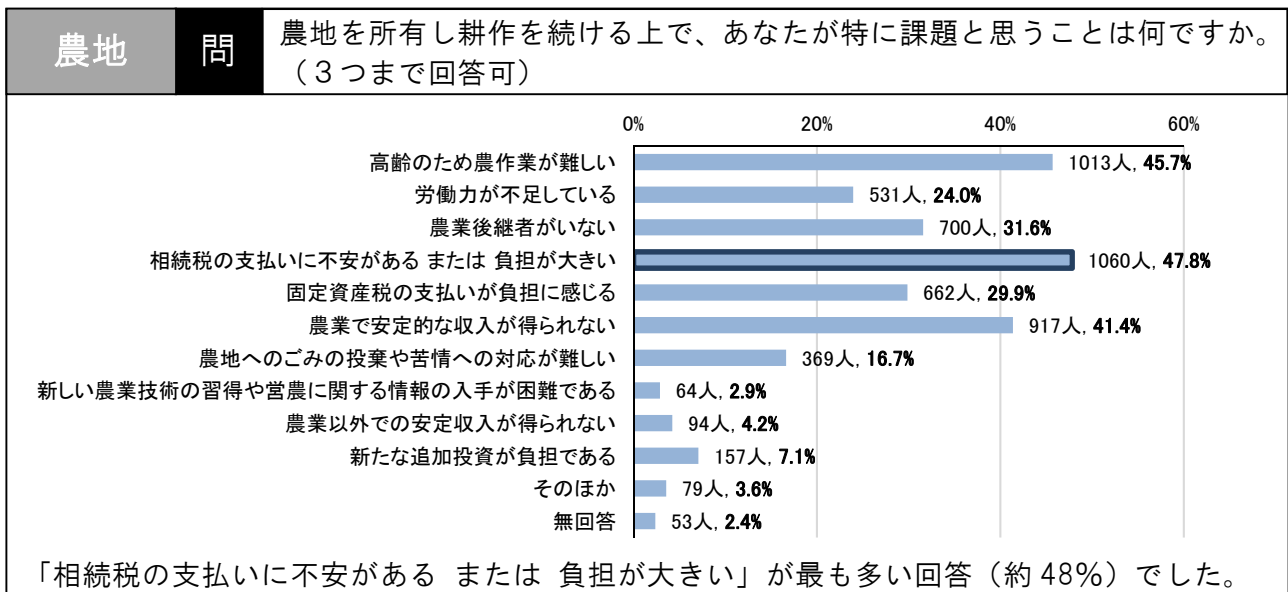
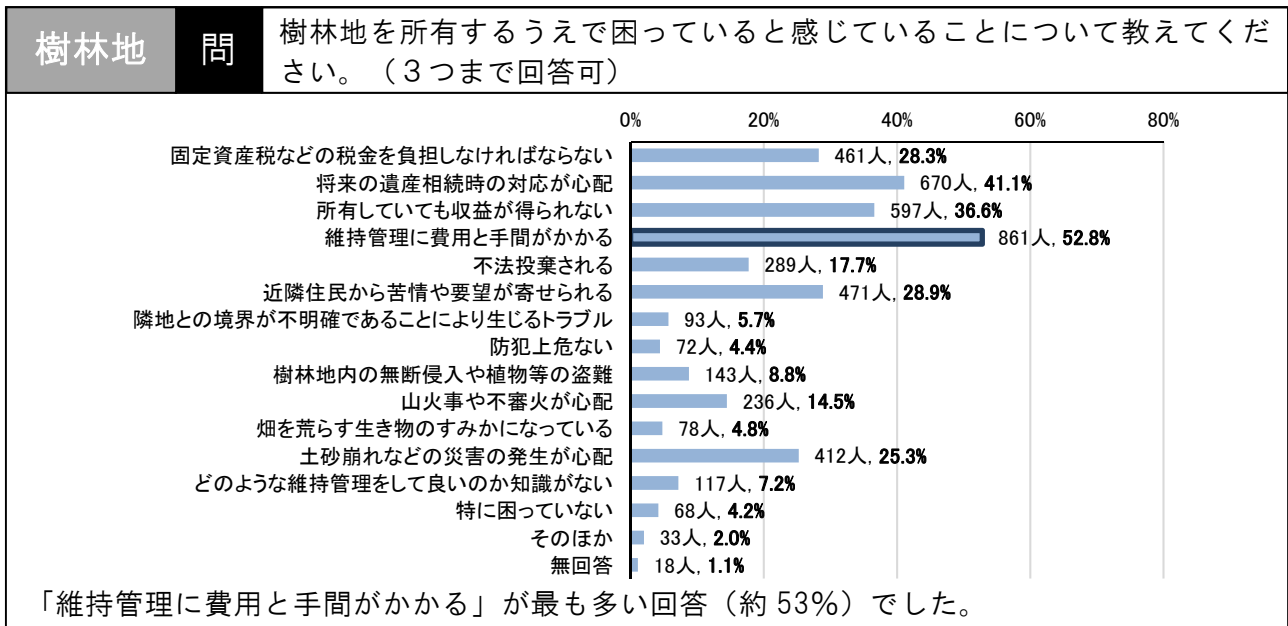
「横浜が彩り豊かな緑や花でいっぱいの街になってほしい」が最も多い回答（約73%）でした。

横浜の緑に関する土地所有者意識調査

1 調査概要

- (1) 調査対象 樹林地：4,612人（一筆500㎡以上の山林所有者）
農地：5,903人（1,000㎡以上の農地所有者）
- (2) 実施期間 平成29年7月6日（木）から21日（金）まで
（7月31日までに到着したものを集計）
- (3) 調査項目 樹林地：樹林地を守るための課題等
農地：農地を守るための課題等
- (4) 回収数 樹林地：1,631票（回収率35.4%）
農地：2,216票（回収率37.5%）

2 回答結果の一例



※上記は回答結果の一例です。設問項目及び回答結果については、環境創造局のホームページ（<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyoo/data/midori-chousa/midorichousa2017.html>）に掲載しています。

お問合せ先	
環境創造局政策課	みどり政策調整担当課長 網河 功 Tel 045-671-2473